QSS通信 2023 3月号
創刊 35号

春分の日ってその年によって日付が変わるって知っていましたか？
春分の日は法律によって具体的な日付が定められておらず、国立天文台が公表する「暦要項」の記載において確定します。毎年3月20日もしくは21日とされていますが、春分の日が年によって違うのはなぜでしょうか。日付の決定には太陽と地球の運行状態が大きく関係しています。太陽が移動している通り道を「黄道」、地球の赤道を天まで延長したものを「天の赤道」といいます。
黄道と天の赤道が交わる2点を、それぞれ「春分点」「秋分点」と呼び、太陽が春分点を通過する瞬間を含む日を春分の日としています。地球の運行状態は常に変化しており、暦にズレが生じるため、春分の日は日付が決まっていないのです。

「建て替えろ」建て主が激怒、欠陥住宅4選

住宅は人生で最も高い買い物といわれます。大金をはたいて手に入れた夢のマイホームがもし欠陥住宅だとしたら……。住まい手の怒りの矛先はつくり手に向かい、大きな紛争に発展するケースも珍しくありません。

今回取り上げるのは、基礎や梁（はり）の不備に激怒した住まい手がつくり手に工事中断や建て替えなどを求めたトラブルに関する記事です。

1本目は、大手ハウスメーカーの建て替え工事を巡るトラブルです。現場の見回りを日課としていた依頼主は、基礎の完成時に、水平に整えるために天端（てんば）へ施工した仕上げ材（レベラー）が剥離していることに気付きました。依頼主は現場監督に報告しましたが、剥離を補修せずに躯体（くたい）を施工。現場監督は「レベラーは剥離していても構造的に問題がない」と説明しました。
「施工不良を放置して開き直っている」と感じた依頼主は、工事を中断して建て替えるか、契約を解除するかの二者択一をハウスメーカーに迫りました。同社は依頼主と何度か話し合いましたが、互いの主張は平行線をたどりました。工事を止めるわけにもいかない同社は、そのまま工事を続行。住宅を完成させてしまいました。怒り心頭に発した依頼主は、建物の引き渡しを拒否する行動に出たのです。

2本目は、新築の現場で発覚した基礎工事の不備です。鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚が不足していました。建て主は「直せないなら解約だ」と工事中断を迫り、現場が5カ月以上止まりました。建て主はインターネットで情報を集め、工事の様子を撮影。かぶり厚の5ミリメートル（mm）不足に気付いたのです。工務店は「この程度は誤差の範囲」と説明しましたが、建て主の怒りは収まりませんでした。

3本目も、基礎に関する欠陥です。品質や性能を確認できるアンカーボルトが使われていませんでした。こちらも、建て主が工事中に撮影した写真で判明しました。築5年を過ぎたこの住宅では他にも、防火の不備など複数の欠陥がありました。工務店は「基礎に関する欠陥の修理は難しい。直せるところだけ直す」と主張。憤慨した建て主は、建て替えなどを求めて訴訟を起こしました。

4本目は、新築住宅で見つかった梁の穴の問題です。施工会社が2階の床下の梁に穴を開け、給排水管を通していました。不安を訴える建て主に、施工会社は「補強工事はしない」と断言。建て主がその根拠を問うと、施工会社は「梁に穴を開けることに関する基準がない。穴を開けても問題はない」と強弁しました。これに建て主は激高。「構造に問題が生じた場合は責任を問う」と言い放ちました。

元記事：日経XTECHより

第25回 三成 哲也の ウォーキング日誌

今月もウォーキングにお付き合いください

2023年2月5日　JR新杉田駅から八景島方面～海の公園～金沢八景駅

自宅がある港南台駅から二駅先の新杉田駅まで電車で移動して海の公園に向かう

新杉田駅6時10分

ほんのりと明るくなってはいるがまだ陽は昇っていない。
新杉田公園を一周するところから今日のウオーキングはスタートだ。まだ薄暗いというのにジョギングをしている人がひとり。すれ違いざま「おはようございます」と声をかけられた、慌てて返したが、自分から挨拶ができなかったことに嫌悪感を感じた。多分自分より10歳は年上であろう。早いペースではないが、背筋を伸ばして黙々と自分のペースで走っている姿が妙にカッコ好かった。今度会った時には自分から挨拶をしよう。

ちょっと恥ずかしい気持ちのまま新杉田公園を後にする。357号線に出て八景島方面にひたすら歩く。

早いもので1月も終わり、もう2月だ。昔、亡くなった母がこの頃しきりに言っていた言葉を思い出す。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」語呂合わせのような言葉ではあるが、母曰く正月が過ぎると新年度が始まる4月まではあっという間に過ぎていくということらしい。多分新学年に向けて、落ちこぼれないようにしっかり勉強をしなさいとでもいいたかったのであろう。「光陰矢の如し」と似通ったところはあるが、言葉の響きが全然違う。
ここで思い出したのが「孝行したい時に親はなし」今思えば母には心配をかけっぱなしだった。この年になって親の有難みがわかってももう遅い。そっと母の名前を呼んでみる。

鳥浜のアウトレットもとっくに過ぎ八景島が近づいてきた。シーサイドラインの八景島駅につながっている橋を渡るとすぐそこに海の公園の砂浜が広がる。この時期だから浜辺にはほとんど誰もいない。少し離れたところでビーチバレーをしている人達が見える。
冬の海は水がきれいで透き通っている。一人なぜか「琵琶湖周航の歌」を口ずさみながら歩く、「我は海の子さすらいの…」

砂浜も終わりシーサイドライン沿いに歩く。野島公園駅辺りには釣り人を多数見かけるが今日は釣り人の姿は見えない。野島公園駅を過ぎT字路の帰帆橋の信号を左折する。いつもは右折するが今日はなぜか左に行きたくなった、自分が左利きのせいではないだろうが、
夕照橋を渡り平潟湾沿いに歩く。ここ平潟湾の水もきれいだ。底まではっきり見える。
平潟湾沿いに遊歩道が整備されていて歩きやすい。もう少し陽気が良くなれば、ここのベンチに腰を掛けて海を見つめているのもいいだろう。傍らに文庫本でもあれば1時間、2時間があっという間に立ちそうな気がする。
前方に湾内にぽっかり浮かぶ琵琶島神社が見えてきた。今日のウオーキングもおしまいだ。
琵琶島神社にお参りして、金沢八景駅から電車で帰ろう。
金沢八景駅着8時30分